ますますその重要性を増しつつある．私たちは，日常診療において，脾臓の形態異常に遭遇することが少なくない．その場合脾 scintiscanning あるいは scinticamera を用いて，脾の形態，大きさ，位置あるいはその他の異常を知ることは，臨床診断上きわめて有益かつ正確なる情報をもたらすものと考える．初めに脾 scintiscanning の概要と各種疾患におけるその形態学的検討を述べ，続いて scinticamera を用いて ^{51}Cr および ^{197}Hg-MHP 投与後の脾臓部における R. I. の集積状態の経時的変化を観察した．また脾 scinticamera の map 像の前および側面像において，各チャンネル活性を段階的に図示し，この方法が脾の厚さおよび立体的形態をよりよく推察できることを示した．つぎに最近経験した興味ある症例を，2，3 示した．すなわちリンパ肉腫症において，脾臓の space occupyina lesion の薬剤投与による変化を日を追って図示し，また癌性浸潤によって脾実質の変化を来した2例を脾 scintigram および camera 像によって示した．その結果 scinti-camera 像の方法が，その集積せる R. I. の濃度については，scintigram に比べてはるかに明瞭に表現すること，また比較的短時間に数方向よりの像をえることによって脾を一層立体的に把握することが可能であることを示した．しかし条件を吟味すれば，scintiscanning ではほぼ実際の大きさの断面積をえることができ，この両者を併せ観察することによってその病的状態の診断に一層の威力を発揮することを示唆した．

質問：塩田憲三（大阪市立大学第1内科）

Hg の人体に興える影響はいかがか？

答：倉 尚哉（京都大学第1内科）

現在の脾スキャニングで使用する ^{203}Hg-MHP の量では，Hg の人体に対する障害は問題にならないと考えます．

*

7. Polysystic disease の1例

高橋 豊 赤坂清司 羽白 清
州崎 剛 有吉浄治 山本泰猛
三宅健夫<内科>
高橋正治 黒田康正 田中敬正
<放射線科>
（天理病院）

症例は51才女子．4 年前両側ならびに上腹部腫瘤の存在を指摘された．肝機能略正常，PSP排泄中等度低下，腎 clearance による，RPF RBF GFR は約1/5に低下，FF は正常であった．左腎動脈撮影および腹部大動脈造影 gram より両側とも腎動脈分枝の偏位伸展狭隘化を認め nephrographic phace における mottling appearance より poly cystic kidneys と考えられたが左腎動脈注入，^{131}IMAA scintigram. $^{99m}TcO_y$ 急速注入直後の腎 scintieamera 像も hypovascularity 数個の space occupying lesin の存在を示し，^{197}Hg neohydrin 注入後経時的腎 scinticamera 像より腎実質へ摂取遅延を認め，3 時間後の通常 scanner による scintigram からも，数個の spaceoccupying lesion，を認め，また数多くの小 lesion の存在も推定された．上記所見はより大なる腫瘤として触知せる左腎とくにその上部にてより，著明であり，腎実質の変型退縮は左腎においてより顕著と考えられた．^{113}I hippuran renogam は RI 摂取排泄能の低下を示しとくに左腎にてより著明であった．同時に camera にて連続 scintigraphy を行ない摂取相にて ^{197}Hg neohydrin scintigram と同様の所見を，排泄相に一致して，掛泄性腎盂撮影 film が認められた腎杯腎盂の圧排変型像を示す所見をそれぞれえた．以上数種の核種による腎 scintigram ならびにその相互比較は非観血的安全な腎形態機能異常の証明法としてはなはだ有効でこのさい scinticamera の迅速簡便性は利用価値の大なるものであった．他に肝 scintigram にて剣状突起下に cyste の存在が推定されたが脾，膵 scintigram ではこの存在を認めえなかった．

*

8. 動脈造影時の ^{131}I-MAA 注入における腫瘍像について
——血管造影との比較——

田中敬正 黒田康正 高橋正治
（天理病院 放）

^{131}I-MAA を動脈内に注入した場合，その末梢の腫瘍組織では正常組織に比較して，より長期にわたって microembolization が続くのではないか，したがって腫瘍の positive scanning ができるのではないかという問題が最近検討されている．

われわれも種々の動脈造影を行なった直後に ^{131}I-MAA を約 300 μCi 注入し，経時的に Scintigraphy を行なった症例を経験したので両者の所見を比較しつつ positive scanning の現われ方を検討した．

症例は40例で悪性腫瘍群27例，非悪性腫瘍群13例である．前者のうちMAAによる positive scanning がえられ

Presented by Medical*Online